第29回 天文文化研究会

The 29th Workshop on Cultural Studies of Astronomy

2025年6月21日/22日（土/日）
@大阪工業大学梅田キャンパス　または　オンライン参加形式

（2025-0615版 ver 1）

本研究会のページ
https://www.oit.ac.jp/labs/is/system/shinkai/tenmonbunka/20250621/index.html

会場参加の方へ

- ★ 会場は，大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町１番45号，7ページに地図あり）です．**10階1004教室**です．
  https://www.oit.ac.jp/oit/access/index.html#id02
- ★ 氏名を１階エレベータ前の守衛室に届けてありますので，「天文文化研究会参加」としてカードキーを受け取ってお進みください．
- ★ 昼食は，21階にレストランもありますが，ご持参されることをお勧めします．
- ★ 大阪工業大学のwifiをご利用になれます．発表用のPCをご持参する場合は，zoomにつないでファイルを共有する形でお願いいたします．

オンライン参加の方へ

- ★ Zoomを用いて双方向の通信をします．Zoomのアプリケーションは無料で入手できます．
- ★ アクセス先はメールにてご案内したものをクリックしてください．
- ★ 聴講される方は，質問されるときのみカメラとマイクをオンにしてください．
  ご発表される方は，ご発表中はカメラとマイクをオンにしてください．
- ★ 画面説明は，7ページにあります．

Slack

- ★ 資料の共有などはSlackを用います．
  ウェブブラウザ（Safari, Google Chrome, MS Edge, Firefoxなど）上で使えますが，PC用のアプリケーション Slack （無料）をインストールした方が，使い勝手がよいです．
- ★ Slackのアクセス先は，招待状をメールで送信しておりますので，そこからアクセスしてください．『#第29回研究会20250621』というチャンネルを用います．
- ★ 資料の共有のほか，質問，感想，情報提供など，なんでも書き込みを歓迎いたします．
- ★ 画面説明は，7ページにあります．

Slackは有料化され，使い勝手が以前と比べて若干制限されています．無料アカウントでのアクセスが１ヶ月となっているため，Slackの今回の研究会チェンネルは2025年7月15日で閉鎖いたします．

第29回天文文化研究会　プログラム

日時　2025年6月21/22日（土/日）

会場　大阪工業大学梅田キャンパス 10階1004教室

時間は前後することがありますので，あらかじめご了承ください．

6月21日（土曜）

9:45　**ご挨拶**　Greetings
松浦 清（大阪工業大学，会場出席）
Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)

―――――― Session 1 ――――――

9:55　**企画セッション「渋川春海の星」主旨説明　【5分，会場】**
Introduction to the special session : Harumi Shibusawa and his Stars
真貝 寿明（大阪工業大学）
Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)

10:00　**[招待講演] 渋川春海と星座　【40分+10分，オンライン】**
[Invited] Harumi Shibukawa and Constellations
嘉数 次人（大阪市立科学館）
Tsuguto Kazu (Osaka Science Museum)
概要：江戸時代の天文学者渋川春海は、星座や恒星位置に関する研究に力を入れており、その中でも、『天文分野之図』における分野説の採用、息子の昔尹名義による『天文成象』に見られる新制定の星座などがよく知られている。これらの星座研究には、天文占が深く関係している。ここでは、渋川春海の星座研究について、天文占との関係を中心に見る。

10:50　**[招待講演] 渋川春海の星図の研究 【50分+10分，オンライン】**
[Invited] Study of the Star Charts made by Harumi Shibukawa
竹迫 忍（日本数学史学会）
Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)
概要：江戸時代の天文学者渋川春海は、平安時代から使われた宣明暦に代わる貞享暦を作成したが、星図や天球儀を残したことでも知られている。これまでの星図の研究では、距星の位置による年代推定が重視され、星図に描かれた星座の形や名称などの研究はされてこなかった。春海の星図についても同様で、星図自体の研究はほぼ行われていない。また、春海の中国星座の星の同定は評価されているが、参考にした星図や文献は不明だった。研究では、春海の星図の特徴を、現存する中国星図の特徴と比較することにより、中国星図の系統の中での位置づけを検証し、春海が影響を受けた星図を推定し特定した。

11:50　**星座図の統計比較【15分+5分，会場】**
Statistical Comparison of Constellation Maps
真貝 寿明（大阪工業大学）
Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)
概要：　星座図の作成プロセスや伝承経路特定の手法として，描かれた星座線の統計量を比較することを提案する．元代『儀象法要』，清代『儀象考成』，渋川春海『天文瓊統』に描かれた星と星座を特定し，それらをIAU現代星座のものと比較した結果を報告する．

昼休み

6月21日（土曜）

――――― Session 2 ―――――

13:00 **[招待講演] 中秋の名月と菅原氏 【50分+10分，会場】**
[Invited] The harvest moon and the Sugawara clan
北山 円正（神戸女子大学名誉教授）
Mitsumasa Kitayama (Kobe Women's Univ.)
概要： 旧暦八月十五夜に月を愛でる習慣（行事）は、平安時代に中国からもたらされたものです。唐の時代に、有名な詩人白居易（白楽天）を中心とする人々が十五夜の月をながめて詩を詠じており、これがこの行事の始まりのようです。そして、白居易の詩（白氏文集）が伝来し、これを学んだ菅原是善・道真父子が、私塾菅家廊下で門下生らとともに十五夜に詩を詠むのを恒例としました。そしてこの行事が貴族社会に広まったのです。その経緯をお話します。

14:00 **室町時代の人々は彗星に何を見たか【15分+5分，会場】**
What did people in the Muromachi period see in the comet?
横山 恵理（大阪工業大学）
Eri Yokoyama (Osaka Inst. Tech.)
概要： 『大乗院目録』には長禄の変について「彗星」と重ねたような記述がみえる。 『大乗院寺社雑事記』や『看聞日記』等の資料にみえる「彗星」について、 その記録が何と重ね合わせられているかを考える。

14:20 **山口県文書館所蔵資料に多数発見された近世天文古記録 【25分+5分，オンライン/会場】**
Discovery of many astronomical records of early modern era in the Yamaguchi Prefectural Archives
山﨑 一郎（山口県文書館）、**松尾 厚，岩村 和政**（山口県立博物館）
Ichiro Yamazaki (Yamaguchi Pref. Archives),
Atsushi Matsuo, Kazumasa Iwamura (Yamaguchi Museum)
概要： この度、山口県文書館において、その所蔵資料の中に彗星、日食、流星、星食など、約80件の近世天文古記録（一部気象・火山現象を含む）を発見したので、それらについて速報する。

14:50 **遣欧・遣米使節の記録からみる幕末期知識階層の地球惑星科学現象の認識【15分+5分，会場】**
玉澤 春史（東京大学/京都市立芸術大学）
Harufumi Tamazawa (Univ. Tokyo/Kyoto City Univ. of Art)
概要： 明治維新期において欧米への使節に参加した者のなかには当時の最新の知識をもっている層が通訳として参加している場合があり、書物でのみ見聞きした現象に遭遇している場合がある。現象の翻訳とも絡んでおり貴重な内容となる。オーロラの記述を例として挙げて紹介する。

コーヒーブレイク

6月21日（土曜）

―――――― Session 3 ――――――

15:30 **Sketching the Ineffable: The Rise and Fall of the Empyrean Heaven in European Astronomy【25分+5分，会場】**

Antonia Karaisl (Waseda Univ.)

概要：The Empyrean heaven is a theological concept which stumbled its way into astronomical discourse throughout the Middle Ages in Europe. Imagined as an immobile realm where the blessed reside after death, said Empyrean heaven found its way into schematic depictions of the universe, until the scientific revolution spelled its demise. In the traditional Aristotelian-Ptolemaic universe, the Empyrean is modeled in analogue to the mobile orbs of the geocentric universe and located on the very outside of the cosmos. Yet these depictions tacitly span a logical chasm: the mobile orbs in the geocentric system correspond to different movements observed amongst planets and stars, which are part of the visible world; the Empyrean Heaven, however, is a sort of paradise and by definition beyond human experience. The following talk will cover a range of representations of the Empyrean Heaven from the Middle Ages to Early Modern Times to understand how these two worlds apart were made to fit within one system.

16:00 **『ティマイオス』にみる宇宙形状の複数性【15分+5分，会場】**

The multiplicity of cosmic shapes as seen in Timaeus

但馬 亨 (四日市大学関孝和数学研究所)
Toru Tajima (Seki Kowa Inst. Mathematics, Yokkaichi Univ.)

概要：プラトン晩年の最重要対話篇である『ティマイオス』には，宇宙の形状にまつわる複数の記述が存在するが，同一著者の同一著作における情報としては整合性が取れない．プラトン自身および後年のギリシャ天文学者はこれをいかに解釈したのか文献学的に分析する．

16:20 **イスラーム世界における王権と天文学【15分+5分，会場】**

Royalty and Astronomy in the Islamic World

星 憲一朗
Ken'ichiro Hoshi

概要：「サーヒブ・キラーン（Ṣāḥib-qirān）」とは金星と木星の「合」を意味するイスラーム世界の王権における概念である。こうした原理を導き出すには天文学的な知が不可欠であり、バグダッド陥落以降のイスラーム世界において各地に天文台が設置された。この概念とともに王権・カリフ制がどのように展開し再編していったかを考察する。

16:50 **宣明暦による日食予告【15分+5分，オンライン】**

Solar eclipse forecast according to the Senmyo calendar

作花 一志 (京都情報大学院大学)
Kazushi Sakka（Kyoto College of Grad. Studies for Informatics)

概要： 862~1685にわたる日食のいくつかの例を示す。予報時刻は国立天文台暦計算室による値と比べ意外に正確であることが解った。

17:10 **暮らしのなかで歌われた星について、天文文化学の視点から考える 【25分+5分，会場】**
Thinking about work song from the perspective of Cultural Astronomy
北尾 浩一（星の伝承研究室）
Koichi Kitao (Star Lore Laboratory)
概要：暮らしのなかで星が歌われ伝承された。１９７９年３月に沖縄県石垣島で「南七星ヤヨウ、天ヌアージマイカラ」と歌われたのを記録して以来、星名伝承調査で記録した星の歌についてまとめ、天文文化学の視点から考える。（地域ごとの特徴、どのような星が歌われたか）。

17:40頃　初日終了予定

6月22日(日曜)

――――― Session 4 ―――――

9:20 **在外星曼荼羅調査報告―ボストン・ニューヨーク編①―　【35分+5分，会場】**
Overseas Star Mandala Survey Report - Boston and New York Part 1 -
大岩 雅典（早稲田大学）
Masanori Oiwa (Waseda U.)
概要： 2025年3月、米国・ボストン美術館、ハーバード大学美術館、メトロポリタン美術館、ニューヨークパブリックライブラリーにおいて、星曼荼羅をはじめとする計11点の作品調査を実施した。本発表では、調査の概要、およびそこから見出された課題の一部について報告する。

10:00 **「柳橋水車図」の月について【15分+5分，会場】**
A Study on the Moon depicted in “Willow Bridge and Waterwheel”
松浦 清（大阪工業大学）
Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)
概要：17世紀初めに流行した「柳橋水車図」は桃山時代の絵師・長谷川等伯とその一門が制作に関わったと考えられ、30点以上の作例が確認されている。図様はいずれもほぼ同一で、その右隻の上部には月が描かれている。月の表現を中心に、本図が描かれた背景を考える。

10:20 **「南方マンダラ」の展開【25分+5分，会場】**
Development of "Minakata Mandala”
井村 誠（大阪工業大学）
Makoto Imura (Osaka Inst. Tech.)
概要：「南方マンダラ」に関連する最近の発見について紹介するとともに、一連の図像を比較しながら南方熊楠の宇宙観・世界観・学問思想の展開を考察する。

コーヒーブレイク

6月22日(日曜)

――――― Session 5 ―――――

6月22日(日曜)

―――――― Session 5 ――――――

11:05　**南部絵暦について【25分+5分，オンライン】**
Nanbu Egoyomi
荒木田 英禎（日本大学）
Hideyoshi Arakida (Nihon University)
概要：　太陰太陽暦が用いられていた明治5年まで，暦は生活になくてはならないものであったが，文字の読めない人のために絵と記号だけを用いて表しためずらしい暦が南部藩に存在した．田山暦，盛岡（絵）暦を総称して南部絵暦と呼ばれる暦について紹介し，成り立ちや背景などを考えてみたい。

11:35　**古代の人は太陽に烏を見たか【25分+5分，会場】**
Did ancient people see crows in the sun?
西村 昌能（NPO法人花山星空ネットワーク）
Masayoshi Nishimura (NPO Kwasan Astro Network)
概要：日という漢字の起源は⊙で横棒は太陽黒点が見えていた証拠だといわれる。それは本当だろうか。太陽には烏が棲むという古代中国の神話や（多分）太陽黒点を観察したと思われる記録を調べてみた。

12:05　**上代日本の北斗の造形【15分+5分，会場】**
The design of the Big Dipper in ancient Japan
清水 健（東京国立博物館）
Ken Shimizu (Tokyo National Museum)
概要：飛鳥時代に中国・朝鮮半島より伝わったと考えられる北辰信仰は、奈良時代には爆発的に流行したとされ、これに関わるとみられる造形作品もわずかながら遺存している。飛鳥から奈良時代の古墳壁画や器物に表された北斗七星について概観し、その図像的特色や意味について考察する。

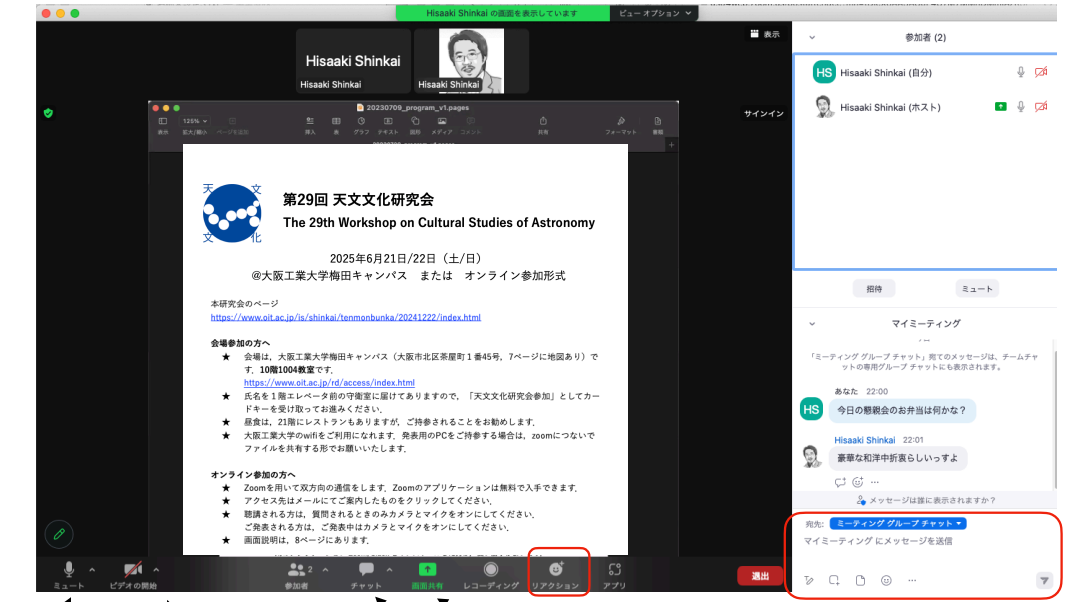
12:25　**(情報告知)「極限時空　ブラックホールと重力波」日本巡回展【5分，会場】**
真貝 寿明（大阪工業大学）
Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. Tech.)
概要：　7月19日から大阪市立科学館と明石市立天文科学館ではじまる展示を紹介します.

12:30　**(情報告知) 第30回天文文化研究会，日本天文考古学会とのコラボイベント【5分，会場】**
松浦 清（大阪工業大学）
Kiyoshi Matsuura (Osaka Inst. Tech.)
概要：　次回，本研究会は第30回を迎えます．2025年12月20/21日（土/日）に開催します．土曜の午後は，日本天文考古学会とのコラボイベント「**天文から文化を読む、天文で遺跡を解く：天文文化研究会と日本天文考古学会の試み**」を開催します.

12:40　終了予定　（やや延長の可能性あり）

この研究会は，科研費・挑戦的研究（開拓）「天文文化学の新展開：数理的手法の導入で文化史と科学論から自然観を捉える研究の加速」(代表・松浦清，2024-2028)のサポートを受けて開催しています.

Zoomの画面　（Macintoshの場合）



(1)マイクのon/off

(2)自分のカメラのon/off

(3)参加者一覧を右に表示

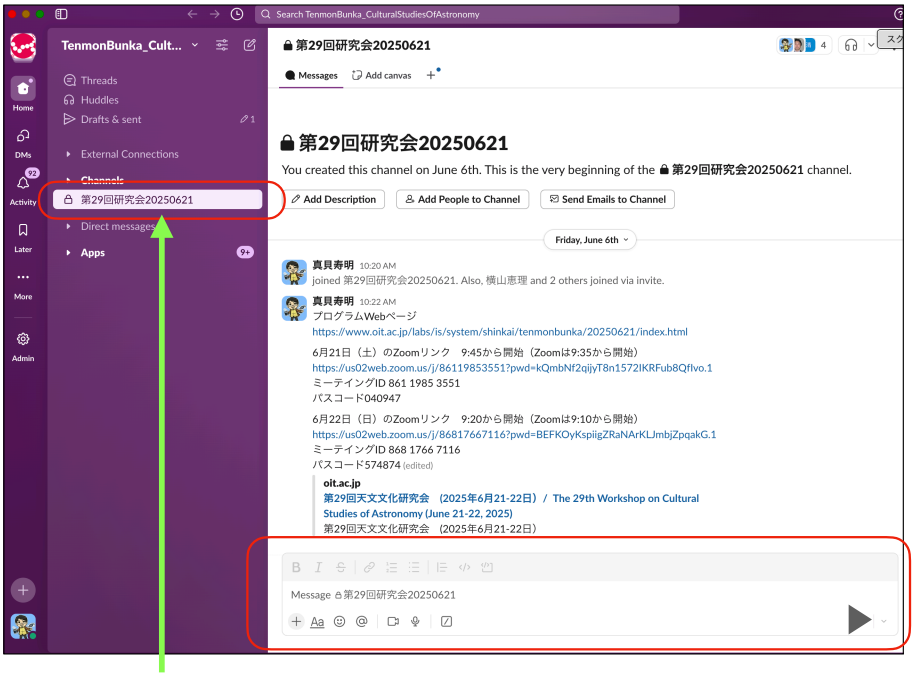
(4)チャット欄を右に表示

自分の画面を共有する

(5)手を挙げるマークを出したり，拍手ボタンを押したりする．

(6)チャットを書き込む

Slack の画面　（Macintoshの場合）



チャンネルといいます．
第29回研究会20250621 へご招待しています

ここにコメントを書いて，灰色の三角ボタンを押すと投稿されます．あとから修正もできます．

ご案内

天文文化研究会のページ

これまでの研究会の記録は
https://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/workshop.html
にてご覧いただけます.

ご案内

情報交換用にメーリングリストを作っております.
tenmon-bunka_AT_googlegroups.com
会員間の情報共有，本研究会のご案内などに利用しております．登録ご希望の方は，
真貝(hisaaki.shinkai_AT_oit.ac.jp)または横山(eri.yokoyama_AT_oit.ac.jp)までお知らせください.

ご案内

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学の視点　星を軸に文化を語る』
（勉誠社，2024年10月，定価 3,850円（税込），ISBN 978-4-585-32542-0）
https://bensei.jp/index.php?main_page=product_book_info&cPath=2&products_id=103765
絶賛発売中．アジア遊学シリーズの１冊として.

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学序説—分野横断的にみる歴史と科学』
（思文閣出版，2021年12月，定価 10,450円（税込），ISBN 978-4-7842-2020-5）
https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220205/
絶賛発売中．研究会参加者は，思文閣さんへの直接購入申し込みで20%引き!!

ご案内

次回の研究会は，2025年12月20/21日　を予定しています.

天文文化学ホームページ

勉誠社　天文文化学の視点

思文閣　天文文化学序説

大阪工業大学　梅田キャンパス　（OIT梅田タワー）へのアクセス

https://www.oit.ac.jp/oit/access/index.html#id02

所在地：大阪市北区茶屋町1番45号

- JR「大阪」駅から徒歩5分
- 阪急「大阪梅田」駅から徒歩3分
- 阪神「大阪梅田」駅から徒歩7分
- 御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- 谷町線「東梅田」駅から徒歩5分
- 【地下街からのアクセス（地下街直結）】
  ホワイティうめだプチシャンモールをプチ北広場まで進み、ヤンマー本社ビルH-2方向に曲がり地下道を突き当たりまで進む。（JR、地下鉄、各私鉄のすべての駅から雨の日も快適にアクセスできます。）

★入構時は，守衛室にて「天文文化研究会参加」としてご氏名をいただければ，入構に必要なカード・キーが渡されるようにしておきます。

★会場は**10階1004教室**　です.